

令和7年度 大阪府立岸和田支援学校 第1回学校運営協議会報告

【日 時】 令和7年6月4日(水) 10:00~11:00

【場 所】 本校 1F 地域支援室

【出 席】 会長…小田浩伸氏

委員…津々木かおり氏、亀坂征児氏、清時綾氏、

校長…松浪啓介

教頭…丸田公司、平岡洋介

事務長…青木昭之

首席・指導教諭…有山暁雄、井上鉄也、小浦亜由里、川並しのぶ

学部主事…福積聡子、岡田香奈子

【欠 席】 副会長…神崎俊之氏

委員…田中由紀氏

【議事録】

☐ 学校長挨拶

☐ 学校運営協議会実施要項の確認

☐ 委員の紹介

☐ 学校運営協議会「会長」及び「副会長」の選出

会長…小田浩伸氏、副会長…神崎俊之氏が承認される。

☐ 出席者自己紹介

☐ 授業見学

☐ 年間テーマ「肢体不自由校における授業のユニバーサルデザインの工夫」について

「肢体不自由支援教育における授業のユニバーサルデザイン例」という資料を昨年度の全教員に配付した。児童生徒にとってわかりやすい授業について、授業見学も参考にしながら学校運

営協議会でまとめていきたい。

指導教諭より全校教科会の説明を行った。月1回、10教科で会議を開催しており、小中高縦割りで情報交換や教科研究、シラバス検討等を行っている。肢体不自由のある子どもたちへの授業研究を行っており、昨年度の美術、音楽、体育に続き、今年度は国語、算数について研究していく予定である。

□ 協議事項

① 令和6年度学校経営計画および学校評価、

令和7年度学校経営計画および学校評価（案）

⇒校長より令和6年度学校経営計画および学校評価について、内容とホームページへの掲載について説明した。令和7年度学校経営計画および学校評価（案）については、特に昨年度からの変更点や新規の取り組み内容について説明した。

中期的目標に関する取り組みでは、新規購入した電気窯の活用やセンター的機能の充実に向けた肢体不自由のある子どもたちへの教育支援、介助用リフトの活用等を行い、地域へ発信していきたいと考えている。介助用リフトについては、昨年度から使用してきたが使用している児童生徒の様子に変化が見られ安心している様子がうかがえた。地域の様々な会議に参加しているが、実際に児童生徒がどのような教育を受けているかわからないということを伺うことも多い。そのため、地域の医療関係者等を対象とした授業見学の機会を設定し、案内する予定である。

（意見）地域への啓発は大事な視点である。特に高校生に対して啓発を検討してほしい。高校生が肢体不自由のある子どもたちと関わる機会が少ないと感じており、肢体不自由教育に関心を持ってほしい。背景として、教職への人気低下、特に支援学校の教員希望が少なくなっていることがある。啓発を進めることは、高等学校への支援にもつながる。また、幼稚園や子ども園に通っている肢体不自由のある子どももいる中で、現場の職員の専門性が低く、苦勞している声も聞くため、就学前の施設との連携も視野に入

れて地域支援に取り組んでほしい。

(LS) これまでリーディングスタッフとして地域支援を行う中で、肢体不自由教育に関する相談はあまり上がってこなかったが、困っている先生方はいると推察した。地域の支援学級や通級指導教室の先生とつながり、親しくなる中で困りごとの情報共有ができればと考えている。その手始めとして、担当の先生方を対象に学校見学会を開催した。今後も情報共有しながら進めていきたい。

② 令和7年度学校教育自己診断実施について

⇒首席より学校教育自己診断実施のタイムテーブル(案)と診断内容の趣旨について説明した。

タイムテーブルは昨年度と変更なし。アンケートは児童生徒用、保護者用、教職員用の3種類あり、学校経営計画と連動させ、アンケート項目を見直している。本校独自の質問項目もある。教育庁の通知に則り内容を調整することもある。アンケートに関してはさくら連絡網で配信し、フォームで回答する方向である。教職員用については、昨年度、回答率が100%ではなかったこともあり、Teams にあげてアンケートをとると同時に回答者も追跡できるようにする。

(意見) 今後の学校運営協議会で診断結果をもとに議論したい。回収率を上げる取り組みも計画通りに進めてほしい。

③ 令和8年度の教科書選定について(案)

⇒教頭より調査研究のスケジュールや学校運営協議会での報告予定について説明した。

④ 保護者からの意見の審議

⇒特になし

⑤ その他、学校運営全般について

(委員からの感想)

- ・授業見学は事業所での取り組みにも役立てるものだった。参考にさせていただきたい。
- ・授業見学は初めてだった。児童生徒が楽しく参加しており、教員が色々と工夫していることがよくわかった。

- ・保護者としては、連絡帳で一日の学習内容を知ることができるが、実際に見学すると教員も楽しんで授業していることがわかる。児童生徒と教員が楽しい授業を共有している雰囲気が大変よいと感じた。学校経営計画について、高校生への啓発やセンター的機能の発揮といった意見や要望があったが、車椅子を使用していると地域の活動に参加することが難しいケースもある。地域の関係者に見学に来てもらい、肢体不自由児を知ってもらうことで、つながりができればよい。地域とのつながりを作っておくことで、防災の観点から何か起こった時の対応がスムーズになる。大切な視点だと感じた。
- ・委員より授業の雰囲気やチームティーチングでの授業等、好感が持てたという意見が多かったことを教員にも伝えてもらいたい。毎日続けることで子どもたちが安心できる場となっているように感じた。現状として、大阪南部では定員割れしている高等学校もある。定員割れしている高等学校の中には、支援が必要な生徒も合格している。そのような現状の中、高等学校の現場としては受け入れの体制が整っていない場合もみられる。今後は高等学校への相談支援や連携が大切な視点となり、ニーズも高まってくると予想される。幼、小、中、高と縦の流れで肢体不自由のある子どもたちを支援していくことで、専門性向上にもつながる。

※ 各協議事項については承認された。

☐ 事務連絡

第2回 令和7年11月19日(水) 10:00～12:00

第3回 令和8年2月4日(水) 10:00～12:00

☐ 閉会